

## 平成25年3月期 中間決算概要

### 連結決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区分		H24/9 当中間期 実績	H23/9 前中間期 実績	増減	H25/3 通期見込 ※2	H24/3 前期通期 実績	増減
営業収益	高速道路事業	3,094	3,360	▲ 266	7,356	6,696	659
	料金収入 <sup>※3</sup>	2,963	2,844	119	5,849	5,680	168
	道路資産完成高	118	508	▲ 390	1,477	993	483
	その他	12	7	5	28	22	6
	関連事業	271	252	19	615	527	88
	SA・PA事業 <sup>※4</sup>	178	181	▲ 2	352	345	7
	その他の事業 <sup>※5</sup>	93	70	22	263	181	81
		3,366	3,612	▲ 246	7,972	7,224	748
営業費用	高速道路事業	2,998	3,238	▲ 239	7,346	6,681	665
	道路資産賃借料	2,037	1,921	115	4,080	3,960	120
	管理費用	843	807	35	1,787	1,726	60
	道路資産完成原価	118	508	▲ 390	1,477	993	483
	関連事業	245	221	24	584	478	105
	SA・PA事業 <sup>※4</sup>	140	140	0	293	280	12
その他の事業 <sup>※5</sup>	105	80	24	290	197	93	
		3,244	3,459	▲ 215	7,930	7,159	770
営業利益	高速道路事業	96	122	▲ 26	9	15	▲ 6
	関連事業	25	30	▲ 4	31	48	▲ 16
		122	152	▲ 30	41	64	▲ 22
経常利益		137	159	▲ 22	64	85	▲ 21
中間(当期)純利益		86	89	▲ 3	43	28	15

※1 当社グループは、当社及び連結子会社26社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っております。

※2 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

※3 前期の料金収入には、無料化社会実験の減収補填金(106億円)が含まれています。

※4 「SA・PA事業」とは、高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)で行う物販・飲食等の事業をいいます。

※5 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

## 高速道路事業トピックス

- 当社管内の高速道路の通行台数は、昨年6月に高速道路無料化社会実験や休日特別割引（上限料金制（休日1,000円））が廃止され、4月～6月の間の交通量が前年に比べ減少したことが影響し、当中間期においては前期比で4.4%の減少となりました。
  - 営業収益のうち、高速道路料金収入は、昨年の休日特別割引（上限料金制（休日1,000円））の廃止に伴う割引額の減少に加え、夏休み期間中の交通量の増加などにより、前期比119億円増の2,963億円となりました。
  - 一方、営業費用のうち独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比115億円増の2,037億円となりました。
  - また、管理費用は、舗装補修工事の推進などにより、前期比35億円増の843億円となりました。
  - 以上のことなどから、当中間期における高速道路事業の営業利益は、前期比26億円減の96億円となりました。
  - 通期における高速道路事業の業績につきましては、料金収入は増加するものと予想しておりますが、道路資産賃借料の増加や、更なる「100%の安全・安心」のための舗装補修や橋梁の劣化対策などを引き続き推進していくことなどから、営業利益は前期比6億円減の9億円を見込んでおります。
  - 当中間期における道路資産完成高<sup>※1</sup>は、新規開通区間が無かったため、前期比で390億円減の118億円となりました。
  - 通期における道路資産完成高は、下半期に東九州自動車道（都農<sup>つの</sup>インターチェンジ～高鍋<sup>たかなべ</sup>インターチェンジ）及び京都縦貫自動車道（沓掛<sup>くつかけ</sup>インターチェンジ～大山崎<sup>おおやまざき</sup>ジャンクション）の開通を予定しており、前期比483億円増の1,477億円を見込んでおります。
- ※1 道路建設にかかった経費と同額の負債を機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益は発生しません。

## 関連事業トピックス

- 当中間期における関連事業につきましては、SA・PA事業において、昨年の休日特別割引（上限料金制（休日1,000円））の廃止による通行台数の減少により減収となったことなどから、営業利益は前期比4億円減の25億円となりました。
- 通期における関連事業の業績は、受託事業の増収などにより営業収益は増加を見込んでおりますが、SA・PA事業の減益に加え、道路維持管理子会社のグループ外取引の減少などにより、営業利益は前期比16億円減の31億円を見込んでおります。

## 決算値の季節的変動

- 高速道路事業においては、気候が良いことや長期休暇が多いことなどから、料金収入は上半期のほうがより多くなる傾向があります。  
他方、冬期における交通を確保するための雪氷対策などにより、上半期よりも下半期に費用が多くなる傾向があります。  
このため、上半期と下半期の業績には下記のような季節的変動が生じ、結果として上半期と下半期の営業利益を比較した場合、上半期の値が大きくなる傾向にあります。

(単位:億円)

区分	上半期(実績) (A)	下半期(見込)	合計(見込) (B)	上半期比率 (A/B)
営業収益	3,366	4,605	7,972	42.2%
高速道路事業	3,094	4,261	7,356	42.1%
うち料金収入	2,963	2,886	5,849	50.7%
関連事業	271	344	615	44.1%
営業費用	3,244	4,686	7,930	40.9%
高速道路事業	2,998	4,348	7,346	40.8%
うち管理費用	843	944	1,787	47.2%
関連事業	245	338	584	42.1%
営業利益	122	▲ 80	41	—
高速道路事業	96	▲ 86	9	—
関連事業	25	5	31	81.2%

※ 下半期及び合計の額は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

【参考】個別決算概要（経営成績）について

(単位:億円)

区分		H24/9 当中間期 実績	H23/9 前年中間期 実績	H25/3 通期見込 ※1	H24/3 前年通期 実績
営業収益	高速道路事業	3,084	3,355	7,339	6,679
	料金収入※2	2,963	2,844	5,849	5,681
	道路資産完成高	118	508	1,477	993
	その他	3	2	11	4
	関連事業	114	96	300	236
	SA・PA事業※3	51	52	104	103
	その他の事業※4	62	44	196	132
		3,199	3,452	7,639	6,915
営業費用	高速道路事業	2,991	3,231	7,331	6,680
	道路資産賃借料	2,037	1,921	4,080	3,960
	管理費用	836	801	1,772	1,726
	道路資産完成原価	118	508	1,477	993
	関連事業	103	86	284	219
	SA・PA事業※3	31	29	65	62
	その他の事業※4	71	56	218	156
		3,095	3,317	7,615	6,899
営業利益	高速道路事業	92	124	7	0
	関連事業	11	10	15	16
		103	134	23	16
経常利益		167	147	90	37
中間(当期)純利益		117	89	73	9

※1 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

※2 前期の料金収入には、無料化社会実験の減収補填金(106億円)が含まれています。

※3 「SA・PA事業」とは、高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)で行う物販・飲食等の事業をいいます。

※4 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。